

2012年2月29日

## マーケットトピックス

### 本日のトピックス

- ・ダウ平均株価指数13000ドル台へ
- ・ドル円と以外な相関 原油市場

#### 【ダウ平均株価指数13000ドル台へ リーマンショック以降の高値回復】

ダウ平均株価指数、これまで日中では何度か越えるも終値レベルではなかなかクリアできなかった13000ドル台に乗せてきた。

図1を見ての通り、このレベルは2008年6月以来の水準。

チャートを見ての通り、QE1は始まった2009年3月を底値にマーケットは上昇を続けている。

(図1:ダウ平均株価指数 日足)



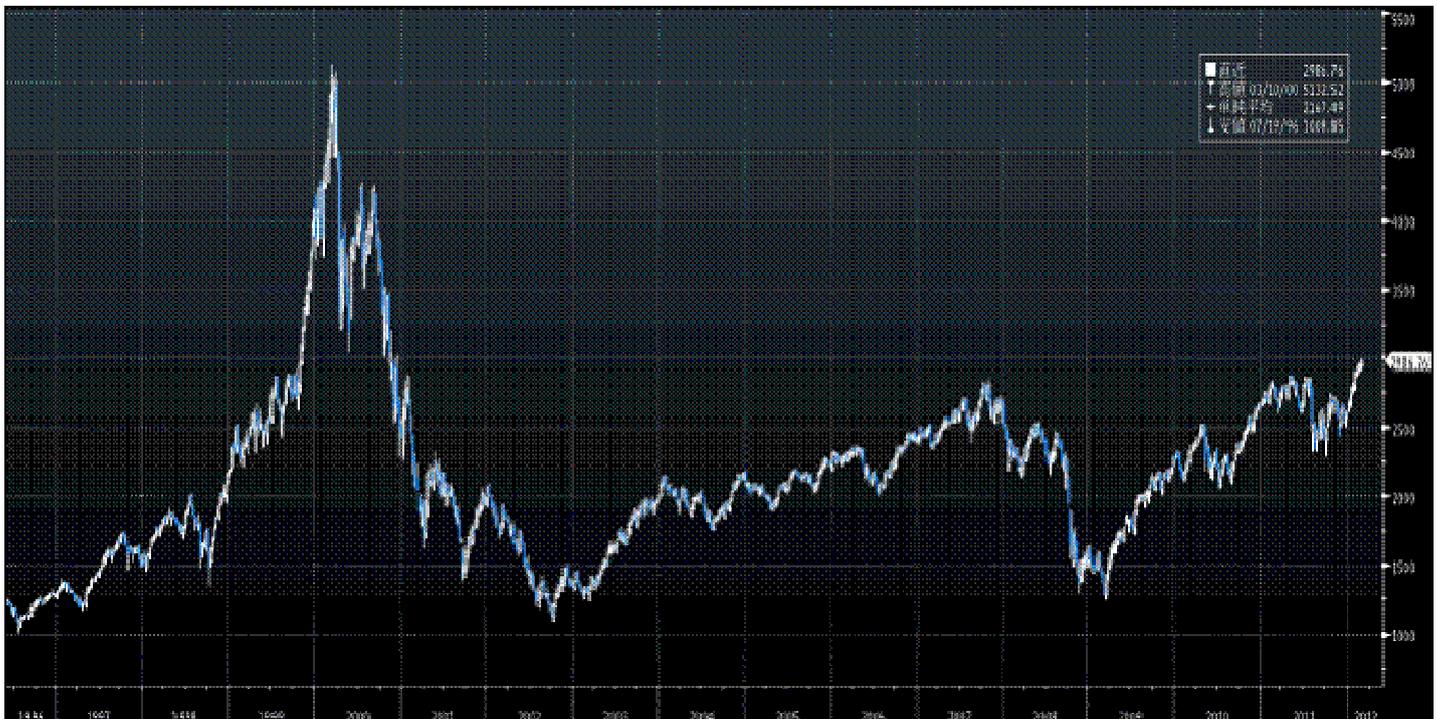
(出所:ブルームバーグ)

ナスダックは2000年以来の高値を更新中。  
これは高値を更新し続けるアップル株の影響大。  
(図2:ナスダック指数 日足)



(出所:ブルームバーグ)

図3は、参考までにハイテクバブルに沸いた2000年のナスダック指数のチャートを表示。  
まだまだ、この時の高値は遠い。  
(図3:ナスダック指数 日足 1996年～)



(出所:ブルームバーグ)

ちなみに、ダウ平均株価指数の高値はリーマンショック前年2007年につけている。  
 こちらは何とか視界に入れられるレベルか。  
 (図4:ダウ平均株価指数 日足 1996年~)



(出所:ブルームバーグ)

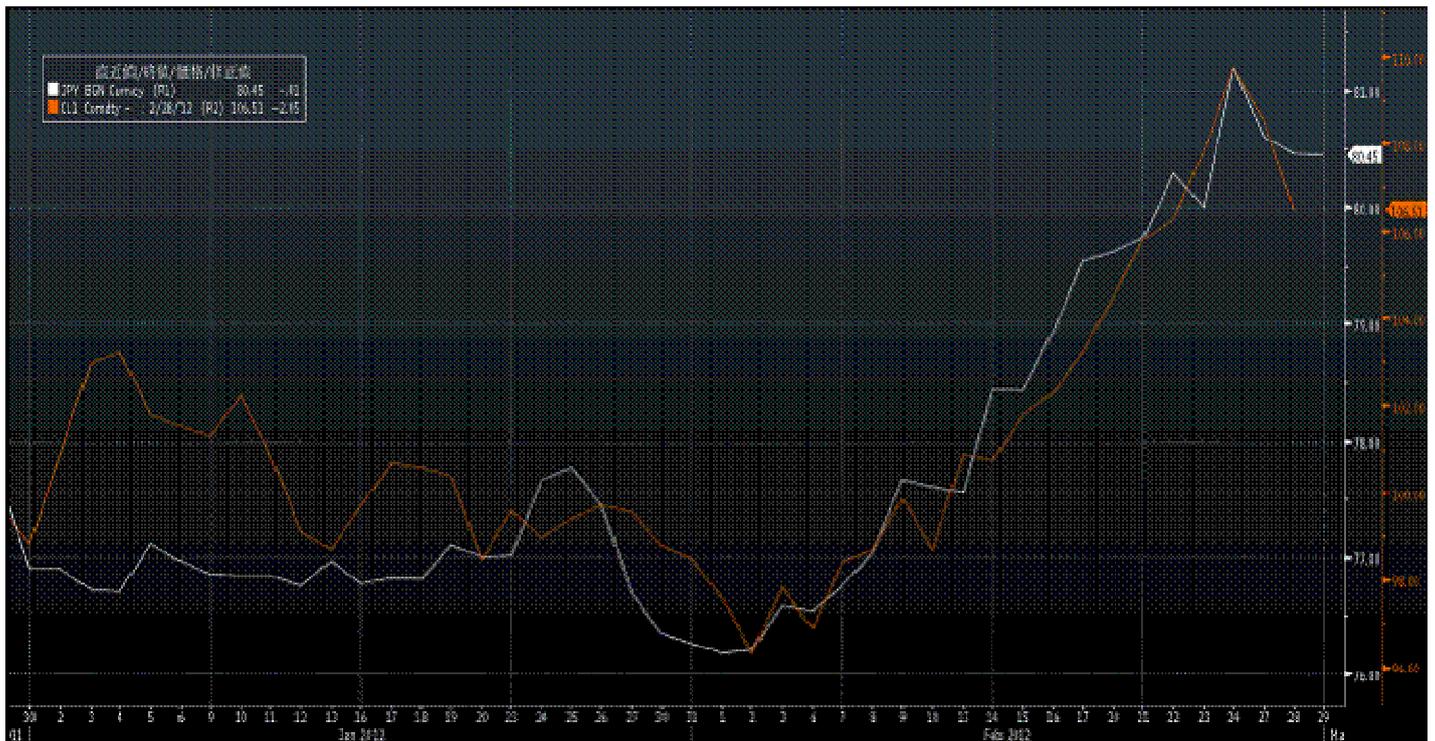
### 【ドル円の調整と原油市場】

2月半ば以降上昇を続けてきたドル円の動き、小休止。  
 この日は80円割れをトライする場面もあった。  
 (図5:ドル円 日足)



(出所:ブルームバーグ)

このドル円、以外なマーケットとの連動性が確認できる。  
 図5は、ドル円と原油の日足のチャートを重ねたもの。  
 上昇開始と昨日からの下落のタイミングはほぼ同じ。ここまでの符合は注目に値する。  
 (図5:ドル円/白・原油/オレンジ)



(出所:ブルームバーグ)

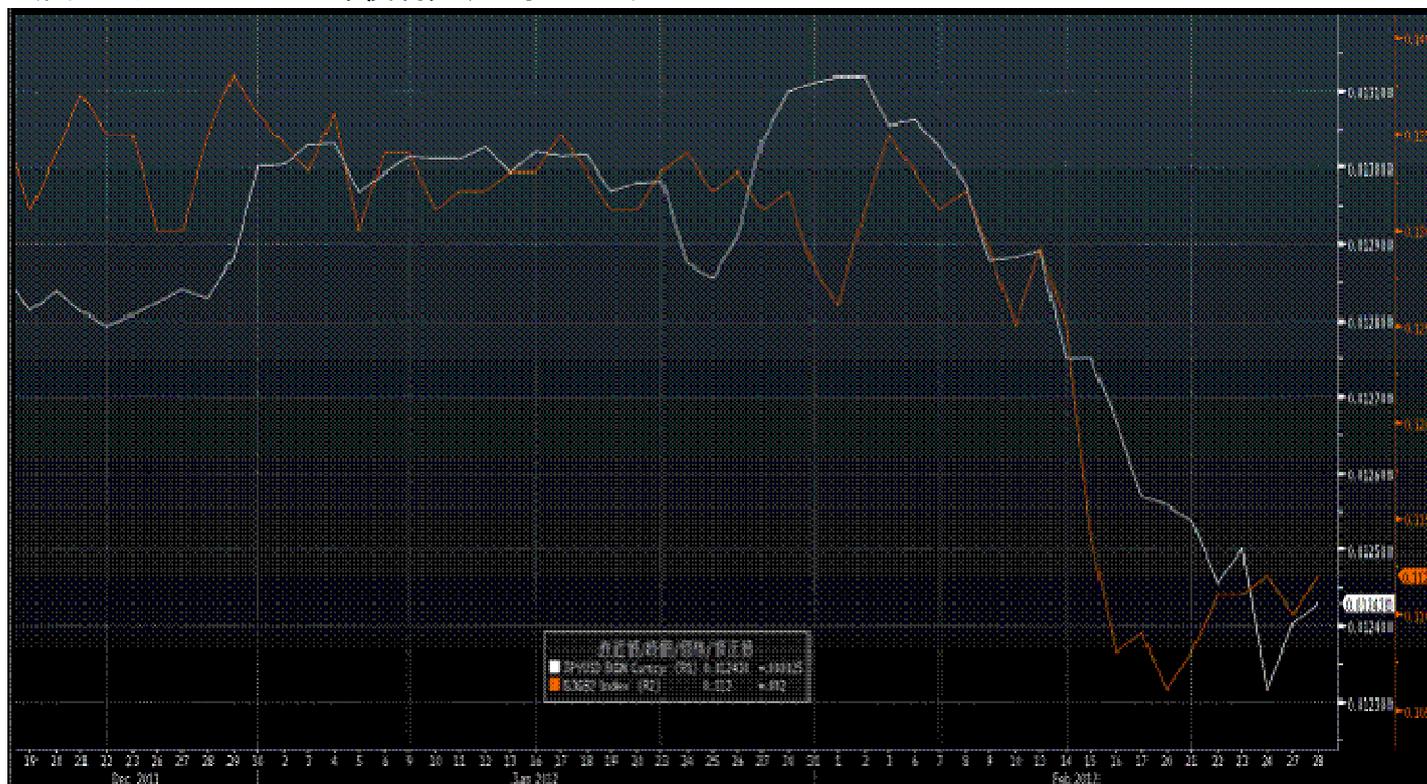
また、正攻法的に為替と金利の相関性という視点から見てみる。  
 図6は、日本2年債金利の推移。  
 日銀追加金融緩和発表後に一気にレベルを変えていることが確認できる。  
 これがドル円の上昇、円の売りにつながったことは明確。  
 (図6:日本2年債利回り 日足)



(出所:ブルームバーグ)

その2年債利回りと円ドル(円をドル軸でチェック)で較べてみると、下落のタイミングはほぼ同じ。目先、2年債利回りは反転を始めており、このことも、ドル円のトレンド変化のきっかけになっていることが推測される。ゼロに限りなく近づいているだけに、下げ余地の限られる金利、ドル円に与える影響力の変化に注視していきたい。

(図7:円ドル/白・日2年債利回り/オレンジ)



(出所:ブルームバーグ)

提供:SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。